



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 平成27年 9月 定例会（第3回） 10月07日－06号

P. 308 8番（大原裕貴君）

◆8番（大原裕貴君）＝登壇＝維新の党を代表しまして、第81号議案、平成26年度芦屋市各会計決算の認定についてに対し、賛成の立場で討論をさせていただきます。

民間の企業のように利潤の最大化を求めるだけでなく、市民の暮らしを豊かにすることを目的に置きつつも、赤字を出すことが許されないという常に難しい経営判断が求められる中で、阪神・淡路大震災後に危機的状況にあった財政状況を現状レベルまで引き上げてこられた市長、職員の皆様の日ごろの努力に敬意を表しています。

平成26年度の決算結果ですが、細かい部分はさておき、全体として市債の繰上償還を実施しながらも、各財政指標を前年度より改善をさせている結果について、未来にツケを残さないための判断として、一定の評価をいたします。

市債残高は約484億円とピーク時の半分を下回る数字となりましたが、いまだ巨額の市債を抱えている状況には変わりなく、将来負担比率も小さいものであるとは言えません。

日本は今後、少子高齢化が進み、人口減少社会になると言われています。それは芦屋市においても同じです。芦屋市は歳入の半数近くを市税が占めている状態です。人口減少によって再び財政危機に陥らないとも限りません。今の段階から少子化、人口減少に歯どめをかけることを見据えた事業展開を図っていく必要があると思われます。

それには、子育て支援や地方創生といった芦屋市の方向性を決める戦略面だけではなく、職員一人一人が原価意識と業務改善によるコスト削減意識を持って取り組んでいくことも非常に重要であると思われます。

平成26年度の決算におきましては、職員皆様のコスト削減意識の成果か、予算を使わないようにしている部分というのも多く見られました。今後も業務改善とコスト削減の意識を持って業務に臨んでいただきたいと思います。

現在、次年度予算の計画策定が進められていることと思いますが、公債費負担の軽減に向けた取り組みを今後も継続していただき、来るべく人口減少社会を見据え、財政運営を進めていただくことを強く要望いたしまして、賛成の討論とさせていただきます。